

π パイディア  
αιδελα

パイディア

2022.4

33号

パイディア三三三号

—東洋大学教職課程年報2022—



東洋大学教職センター  
東洋大学教務部教職支援課

110111・四

# 特別企画

## 埼玉白山教育会寄稿

はじめに

昭和六十二年（一九八七年）十月三日「埼玉白山教育会」が発足し、今年で三十五年目を迎えます。「パイディア」特別企画「白山教育会」として、昨年の「東京白山教育会」「パイディア三十二号」に続き、今年「埼玉白山教育会」についての特集が企画されました。

「埼玉白山教育会」について、今ここでまとめ・記録に残しておくことが重要であり、今後の東洋大学の教職・教員養成の基礎になると教職支援課からお話をいただきました。その時々を先輩先生方に伺うことが年々出来なくなる中、成立経緯、歴史、活動や親睦、大学との連携について資料等を調べ、また先輩会長のお話を伺い、記録として残す



### 「埼玉白山教育会」の発足、歴史と現在の活動について

埼玉白山教育会会長  
東洋大学教職支援アドバイザー

横山 清

ことを試みます。内容は、

- 一 「埼玉白山教育会」発足とその前後
- 二 「埼玉白山教育会」の歴史と現在の活動
- 三 サステイナブルな好循環へです。

#### 一 「埼玉白山教育会」発足とその前後

「埼玉白山教育会」について調べていくと、発足以前に「白山高校長会」「白山高校長懇談会」「招待会」が毎年恒例行事で、校友会・大学の共催で行われていたことがわかってきました。「埼玉白山教育会」の成り立ちを理解するためにも、それ以前の「白山高校長会」等についても調べる必要があります、年代順に記すことにします。

#### (一) 「白山高校長会」

昭和三十六年ころより開催  
最初に「白山高校長会」の記事を見つけたのは、「東洋大学校友会報124号」昭和五十六年七月二十日発行でした。

#### ① 「白山高校長会開かる」

白山高校長会ならびに大学、校友会の共催による招待会は、昭和56年5月28日（木）浦水会館で開かれた。母校卒業生で全国高校長は27名。（校友会本部事務局調）当日は5名の校長が出席・・・大学理事長、学長、短大学長、常務理事、校友会常任委員が出席して高校教育の現況、受験体制などについて話がかわされた。本年から近隣の教頭、指導主事にも出席を願う4名の先生方が出席した。

校友会報記事で確認できた最も古いものは、「124号昭和五十六年」ですが、昭和三十六年頃より、高校との連携を図り「白山校長会」「白山高校懇談会」を開催しているとの記録もありました。また、「第三十回白山校長会開く」（校友会報165号）では、「昭和三十六年（一九六一年）五月発足依頼毎年開催され、平成二年（一九九〇年）で三十回目を迎えた」との記事もあります。このことから、昭和三十年代の高度経済成長の頃より校友会・大学と「白山校長会」の会議・懇談が毎年行なわれ、一致結束して志願者の増加策等で東洋大学を盛り上げる機運と情熱が伝わってきます。昭和から平成になっても引き続き開催されてきたことが校友会報で確認できます。

## ② 「白山高校長会開く」

昭和61年度の白山高校長会は、5月29日（木）ホテル東京海洋会館において開催・・・母校出身の教職員は全国で6000人を超え、5人の校長が出席、会長に日下部公保氏が就任し・・・校長と都内近県教頭、母

校から理事長、学長、短大学長、校友会長が出席・・・

「東洋大学校友会報149号」  
昭和六十一年七月二十五日

## ③ 「白山高校長懇談会」

昭和62年度の白山高校長懇談会と高校長ならびに都内近県教頭招待会は、5月29日（金）ホテル東京海洋会館において開催・・・全国の教職関係者」約7000人を結集させるような新たな構想が出された。

「東洋大学校友会報153号」  
昭和六十二年七月二十五日

本学出身全国高校長、都内近県の高校教頭と中学校長招待会開催される

校友会と大学の共催による全国高校長、都内近県の高校教頭および今年から初めて都内近県中学校長を招いての招待会が5月27日（金）ホテル東京海洋会館で開催された。この招待会は昭和36年頃から毎年行われてきたが・・・

「東洋大学校友会報157号」  
昭和六十三年八月五日

先ほども書きましたが、「白山高校長会」「白山高校長懇談会」「本学出身全国高校長、都内近県の高校教頭と中学校長招待会」は、毎年恒例行事で行われ、昭和から平成になっても引き続き行われていたことが校友会報で確認できます。校友会・大学の共催で、大学の現況報告と共に、①教員採用、昇任に関する情報交換、②後輩教員の指導助言、③教員志望学生への情報提供を目的にする「各県の白山教育会」を組織化する意図をもって開催されたようです。この運動エネルギーが、「各県の白山教育会」結成へと漕が繋がれます。

## (2) 「教職の東洋」

### —全国七千名の教職員

昭和六十年、卒業生の教員、全国で五千七百人」の記事が、「東洋大学校友会報146号」昭和六十一年一月十日にあります。「教職の東洋」を名実とともに顕示する内容です。

## ① 「卒業生の教員、全国で5700人」

校友会では昨年度各支部を通じて「卒業生の教職在籍者の調査」・・・

小学校は1259名、中学校1856名、高等学校2193名、養護学校409名・・・小学校調査は関東圏のみ。

校友会組織を通じて「卒業生の教職在籍者の調査」を行い、その資料をもとに個々の先生方、全国の中・高・養護学校に調査を依頼し、教員名簿作成を行った成果が五千七百七名の現職教員名簿として結実しました。教員情報収集力、校友会の組織力そして校友会・大学・各県支部組織が一致団結し、「教職の東洋」此処に有りを具現した時代です。

「従来実施されていた東京近県の本学出身教員250名対象の東洋大学教職課程連絡協議会を改め、昭和60年11月30日、東洋大学出身校長等懇親会が開催された。卒業生の全国教職員在籍者調査の実施で約6000名、関東地区の学校長・教頭の管理職160名」（校友会報146号）の記事があります。

「校友会報161号」平成元年八月二十五日発行では「白山高校長会、都内近県高校教頭並びに中学校長招待会の中で、全国7000名の

校友教職員・・昭和63年には新任教員160名、平成元年には180名に増員」の記事があります。

圧倒的な多さの教員数と「白山高校長会」、「白山高校長懇談会」「全国高校長、都内近県の高校教頭と中学校長招待会」の開催は時を同じくしています。「教職の東洋」を誇った先生方はその後も教壇で活躍し続いています。

### (3)「埼玉白山教育会」の発足

「埼玉白山教育会」は、昭和六十二年に発足しました。ここで、日下部公保・埼玉県立蕨高校長が初代会長に選任され、四十七名東洋大学出身の埼玉県の教員が集いました。親睦、教育活動の連携、後輩の育成、教員採用に尽力し、今後の発展、全国的な組織への拡大を申し合わせました。

#### ①「埼玉白山教育会」発足する

埼玉県立松山高校 田中啓彦  
「埼玉白山教育会」の発会式が、昭和62年10月3日午後3時から、母校朝霞校舎図書館AVホールにおいて開催された

この会は、私どもがつねに感じていた教職員の全国組織があればという念願が、母校100周年を機に、大学当局や白山高校長会等での機運が高まり、まずお膝元の埼玉県で旗揚げしようとして発足したものである。：出席者47名に大学・校友会から7氏の来賓を迎え・・川端淑徳与野高校長の挨拶、菅沼教職課程委員長、浅川校友会副会長の祝辞・・

「白山教育情報」創刊号  
昭和六十二年十一月一日発行

第三回埼玉白山教育会総会が、平成元年十月二十一日朝霞校舎にて開催され、田中啓彦・入間向陽高校長が会長になり、神作光二学長、浅川行雄校友会長が出席された記録があります。「校友会報163号」平成二年二月十日発行

#### (4)「白山教育会」発足が全国に広がる

「埼玉白山教育会」の発足前年(六十一年)に新潟県、六十二年の埼玉県、六十三年長野県、茨城県、平成元年一月千葉県、平成二年九月東京都と各県・都に「白山教育会」が怒

涛の如く結成されたことが校友会報で確認できました。詳しく調べれば更に多くの県で結成されていることでしょう。

#### ①全国に「白山教育会」結成への動き

昨年の母校創立百周年を契機に、東洋大学出身の教員組織「白山教育会」を結成しようとの呼びかけに応じて、以前から組織されている新潟県、昨年結成された埼玉県に引き続いて、本年度も全国各地に活発に推進され・・長野県では9月に結成を見、茨城県では12月、千葉県は明年1月に結成予定で東京都にも準備会が発足した。

「東洋大学校友会報158号」  
昭和六十三年十一月十五日

長野県は校友会支部の教員有志が中核となり、組織拡充として「長野白山教育会」会員百二十七名、茨城県は支部活動の一環として「茨城県白山教育会」を結成、校友教職員三百五十名、千葉県は昭和六十一年より毎年会合を重ね、平成元年一月に結成大会予定とあります。

各県からは大学に「教員養成に一層の充実を」「全国高等学校長会議の会場に大学校旗を立て東洋大学のPRと東洋大学の校長の会合があることを全国三千人の校長に知らしめてほしい」「教員採用試験合格者に先輩の校長を訪ねるよう奨めてほしい」など具体的な意見が出されています。

各県の「白山教育会」は、東洋大学出身教員の組織化を熱心に行い、校友相互の連携・育成・情報交換・親睦を行い、更に後輩学生の教員採用試験の合格と若手や後輩教員の育成を熱心に行っていました。このことは「白山教育会」発足と活動の成果です。

#### 二 「埼玉白山教育会」の歴史と現在 の活動

##### (一)活動について

東洋大学はかつて「教職の東洋」と言われ、教員七千名が全国にいました。

埼玉県においても、東洋大学を卒業し、小学校、中学校、高校、特別支援学校等で活躍する教職員がいま

す。その教職員が、力を合わせ、活動しているのが本会「埼玉白山教育会」です。昭和六十二年（一九八七年）に発足し、令和四年で三十五年目を迎えます。現在は、東洋大学教務部教職支援課、校友会本部と埼玉県西部支部と連携して、教員養成、若手教員の育成、埼玉教育への貢献、会員相互の交流と親睦を目的に活動しています。

具体的な活動は、毎年八月に受験実践指導、十二月に総会・講演会・研修会・表彰。親睦を行っています。一時期は会への参加教員が先細りし、東京白山教育会と共催、隔年開催と先行きが心細くなりかけたこともありました。

しかし、平成二十六年から、川越キャンパスにおいて毎年総会・講演会等を行い、参加人数も年々増加、特に若手教員の参加が増え、会員の半数以上が二十代で、研修発表・教育論文表彰等を行い、活況を見せています。

令和二、三年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためインターネット・オンラインでの総会開催でした。

## (2) 歴代会長

歴代会長に対し、敬意と感謝を込めてご紹介させていただきます。本会を継続発展させていただきありがとうございます。

日下部公保先生（元県立蕨高校長）  
川端幹夫先生（元与野淑徳高校長）  
田中啓彦先生（元県立所沢高校長）  
飯塚和夫先生（元県立児玉高校長・元西武学園文理小中学校副校長）  
中島明男先生（元川越市立初雁中学校長）

## 【寄稿】

埼玉白山教育会の活性化へ

元会長 飯塚 和夫



平成元年の冬、日下部公保氏の呼びかけで、始まった。田中啓彦氏、千葉義敏氏、川端幹雄氏等々、東洋大学出身の教育界で活躍中の方々、十数名が集まった。その中に教職十八年の私も末席にいた。日本の教育界は問題が山積し、教育改革が声高に叫ばれ、臨時教育審議会の最終答申として「個性の尊重」「生涯学

習への対応」「情報化国際化への対応」が三本柱のキーワードとして現場に求められ、埼玉県も積極的に改革を進め、埼玉白山教育会を再生活性化しようとした会合である。会合

で川端氏が「教育改革と称して学校での個性の尊重、学校自体の変化への対応を求めている。私学は何年も前から特色ある学校づくりをしている。公立は私学の後追いばかり。」この言葉がこの後の私の教育観の根幹を形作ることになった。埼玉県の公立高校は百五十五校、私立高校は四十七校。高校教育は公務員と民間人で担っている。

公立教育の限界を意識しながらも学校の個性化、特色化を進め、変化への対応を求めて、生徒一人ひとりへの魅力ある学校づくりに邁進してきた。県教育委員会教育局では教員研修担当として教員の悉皆研修や機関研修を実施して多様な人材を生かし、学校現場への教育力向上を担う機会も得た。県立児玉高校長時代に会長となった当初、大学側の窓口は主に入試担当者であった。東洋大学が大学受験に向け、学生募集に力を入れているのがよくわかり、高校現

場からの実情とその対応などが共通話題となった。卒業生の活躍、満足度が上がってこそ大学の評価につながっていく。

その後、十年間、西部学園文理小、中、高校の副校長、大学の理事長学長補佐として「進学校」の特色化を出すべく、またとして、国際化を視野に変化への対応を図る教育、「建学の精神」を生かす私学教育を進めてきた。教育界において、公立と私学教育への目を開かせてくれたのが、埼玉白山教育会の仲間であり、川端氏の一言が私の教育人生に大きな影響を与えた。平成七年から個人情報保護のもとに教職員名簿が発行停止となった。連絡網等、新規参加者に連絡・出席を促す手段が虚弱になった。

広い視点から異世代や業種をまたがって埼玉教育に尽力できることは、底流に東洋大学という共通の土壌が生きている。私たちがそこで実績を積み、教育界に貢献していくことこそ人間作りのプロ集団、埼玉白山教育会の大きな役割と確信する。

## 出合い・学び・支援

前会長 中島 明男



昭和五十一年埼玉県公立中学校教諭(社会科)として教職生活が始まり、川越市立初雁中学校長として平成二十六年三月末で定年を迎えた。私が東洋大学へ進学し教職の道を目指したのは高校時代の恩師(元埼玉白山教育会会長)田中啓彦先生存在がある。田中先生には高校時代から大変お世話になった。埼玉白山教育会についてもお誘いいただき、同級生の清水洋志先生(元富士見市立勝瀬小学校長)と共に入会し、現在に至っている。入会に際し田中先生から、多くの人と出合い学び合えることがメリットとの説明を受けた。実際、異校種の先生方との出合いは、近隣の学校で活躍する会員の存在を確認し合うとともに、自らの視野を広げることができた。また、総会後の講演会は多くの学びがあり教育実践の充実結び付く内容であった。私は平成二十五年度まで飯塚和夫先生のご指導の下、会長を務めさせて

いただいた。当時は東京白山教育会と合同実施(講演・懇親会)で、教務部共通教務課のご支援と「東京」関本会長のご協力により白山キャンパスで開催された。この総会では、現学長(当時文学部教育学科教授)矢口悦子先生からご講演いただき、懇親会では交流により東京都の教育の一端を垣間見ることができた。

平成二十六年からは横山清会長のご尽力により学生支援の活動が進展している。採用試験一次合格者への面接指導、採用試験合格者等の会への参加、初任者研修成果発表等である。若い教員が参加し、白山教育会の活性化が図られている。同時にこの間、義務教育関係では高沢佳弘先生(毛呂山町・教育長)、小坂井啓二先生(前日高市立高萩北小学校長)、松波徳美先生(富士見市立水谷東小学校長)を初めとする先生方が入会され、ご活躍いただいている。埼玉白山教育会が、出合い・学びに加え「支援」という活動が追加され益々充実してきている。今後は中堅教員会員の発掘と加入した若手教員への支援継続が課題である。私も会長と共に微力ながら努力したい。

## (3) 冬の時代

個人情報保護の流れの中で、会員への連絡、総会開催が困難な時代を迎えていたことを飯塚元会長が寄稿文中に書かれています。平成六年を最後に埼玉県立高等学校教職員関係名簿が作成されず、義務教育関係教職員名簿も同様でした。個人情報保護管理がなされ、埼玉白山教育会も名簿作成・活用が制限され、活動が難しく、会の運営が大幅に縮小されていく冬の時代の到来でした。更に事務局ノートパソコンの事故による会員情報消失という災難も追い打ちを掛けました。また、生徒急減期も重なり、埼玉県立高等学校は統廃合で学校数が減少する時代を迎えていました。平成の時代は、生徒数の減少と教職員の高齢化で、若手教員・会員の減少時代でした。

私が埼玉白山教育会に参加したのは飯塚和夫元会長の誘いです。飯塚先生は、埼玉県立高校管理職の会「読書会」の大先輩でもあります。平成十六年度総会(白山キャンパス・浦水会館)では中島明夫前会長にもお会いしました。今もお二人から薫陶を受けています。

会長任期時代は、飯塚元会長平成十一年～十七年、横山会長(第一回目)平成十八年～二十一年、中島前会長平成二十二年～二十五年でした。平成十九年度総会からは東京白山教育会と白山キャンパスにて合同実施でした。会員一人一人の胸中には「埼玉白山教育会」を埼玉県で開催したいという捲土重來の強い願いがありました。

## (4) 埼玉で総会・講演会活動へ

私は、平成二十六年四月川越キャンパス教職支援室に教職支援アドバイザーとして着任しました。同時に埼玉白山教育会第二回目を引き受けました。この年より、一二月に川越キャンパス教職課のご協力・支援を得て「埼玉白山教育会」総会・講演会を埼玉県にて開催できるようにになりました。以下新たな取組も報告します。

### 講演会の歩み

平成二十六年度 東洋大学名誉教授 宮崎英憲先生  
「国の教育改革の動き」  
平成二十七年 度

東洋大学副学長 神田雄一先生

「最近の東洋大学の歩みと活躍そしてこれからの発展」

平成二八年度

東洋大学准教授・陸上競技部短距離部コーチ 土江寛裕先生

「リオ・オリンピックを振り返って」

平成二九年度

前埼玉県副知事 岩崎康夫先生

「埼玉県における少子高齢化社会の課題と対応」

平成三十年度

東洋大学教授 大辻永先生

「教育改革にみる三本の矢」

令和元年度

東洋大学校友会会長 神田雄一先生

「東洋大学と校友会活動」

令和三年度

埼玉県立生越高等学校長

江森幸夫先生

「私の教育実践」

懇親会では、大辻教授、藤田川越事務部長、鈴木教学課長、神田校友会会長、岡部校友会埼玉県西部支部会長、会員の校長・教頭・教諭、そして若手教員、東洋大学出身の教育関係出版社の方々も交えての親睦と熱い交流が行われています。

(5) 埼玉県教員採用試験の合格に向けて

―二次試験対策指導

埼玉白山教育会員には、小学校、中学校、高校、特別支援学校等で活躍される校長・教頭等の管理職の先生方が多数います。

平成二七年(二〇一五年)より毎年七・八月、川越キャンパスで、埼玉県教員採用試験二次試験対策実践指導を実施しています。小学校、中学校、高校、特別支援学校の一次試験を通過した学生対象(白山・川越・朝霞・板倉キャンパス)に、集団討論、個人面接、集団面接の指導を小・中・高・特支の校長先生方が直接面接等の指導を行っています。

二次試験に見事合格させ、後輩教員を育成する事業として定着しています。

学校種別・個人指導の実践演習で、白山・川越・朝霞・板倉キャンパスから参加した学生は「本番と同様の緊張感の中で指導していただきました。がんばります。」と二次試験通過に向けた決意を述べ、60%以上の合格率で、翌年の四月新任教員として教壇に立っています。



教員採用2次試験の受験学生を激励する  
神田校友会会長(中央)

(6) 若手教員の育成―研究発表会・「東洋大学埼玉白山教育論文賞」を新設

平成二十九年度より若手教員の研修と活躍のため研修会を開催し、日頃の教育活動を発表する機会を設けました。英気溢れ、輝く若手教員が「教職の東洋」の復活の要となることを期待し、併せて埼玉白山教育論文賞の授与を行っています。

① 研究発表

平成三十年十二月八日

川越市立芳野中学校教諭

伊藤涼介先生「初任者研修の一年」

平成元年十二月七日

東松山市北中学校教諭 國本千里先生「初任者研修そして今年度の実践」

令和二年度十二月十二日

滑川町立滑川中学校教諭

前田健太先生「教員二年目を迎えて」

令和三年十二月十八日

富士見市立西中学校教諭

増田隆史先生「教員二年目を振り返って」

② 「東洋大学埼玉白山教育論文賞」

令和元年度

川越市立芳野中学校教諭

伊藤涼介先生「日々研修、経験を積み続けてよりたくましく」

『パイディア』二〇一九年三十号

東洋大学教職課程年報

令和二年度

東松山市北中学校教諭 國本千里先生「二年間の軌跡」

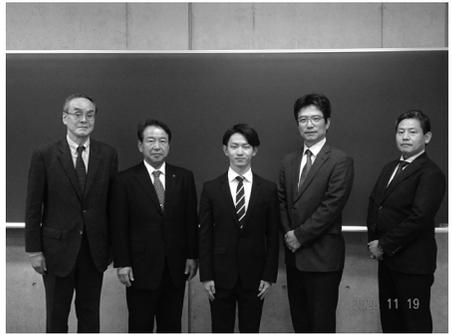
『パイディア』二〇二〇年三十一号

令和三年度

滑川町立滑川中学校教諭

前田健太先生「充実の二年間を振り返り」

『パイディア』二〇二二年三十二号



埼玉白山教育論文賞・國本千里先生  
(右から3人目)

## (7) 川越キャンパス教職受験状況

### ―教職支援アドバイザーとして着任

平成二十六年四月、私は川越キャンパス教職支援室に教職支援アドバイザーとして着任、同時に埼玉白山教育会長第二回目を引き受けました。私は、埼玉県の高等学校で高校十校(県立・市立・私立)に勤務しました。一般的教員の倍以上の勤務校数です。「転勤は最大の研修」ということばを今実感しています。教諭、管理職、全日制・定時制、普通科・工業科・農業科・商業科・外国語科を経験したことが、教員志望学生の指導に大変役立っています。

平成二十六年に教職支援アドバイザーが白山キャンパス(四名)、川越キャンパス(一名)、板倉キャンパス(一名)、朝霞キャンパス(一名)に配置、教職支援室が同時に開設されました。宮崎英憲スーパーバイザー(東洋大学名誉教授)を中心に教職支援アドバイザー会議が年二回行われ、報告・研修・交流を通じて教員採用試験合格に向けた活動・向上に取り組みました。各キャンパスの学生指導のレベルアップが統一してなされました。また教職支援アドバイザーは、拠点キャンパスと他キャンパスを兼ねた学生指導体制で、例えば私は、川越キャンパス(火・水・金)板倉キャンパス(月)という形態でした。この勤務形態が奏功し、各キャンパス間の交流が潤滑に行われ、学生指導、合格数向上に相乗効果をもたらしたと考えます。また、教職を目指す学生のキャンパスを超えた動きが発生し、例えば、白山キャンパスの教職の骨太教師養成セミナーに川越・板倉・朝霞の学生が参加するなど、その上キャンパスを超えた学生同士の交流も芽生えました。さらに先に述べた「埼

玉県・さいたま市教員採用試験二次試験対策実践指導」(川越キャンパス)に参加したに白山・板倉・朝霞キャンパスの学生同士の交流からグループが結成され、そこから集団討論、面接、理科実験学習などキャンパスを超えて学びの輪も発生してきました。

川越キャンパス教職履修学生の教職状況の暦年データ(図表12ページ参照)を分析してみます。私が着任(平成二十六年度)以後のデータです。着任(平成二十五年)以前は、一名程の現役合格者でした。また、理科教育専門の大辻永教授が平成二十八年度赴任され、教職課程・教職科目が充実、公立教員志望者数が上昇してきました。

受験自治体は、ほぼ学生の出身地の都道府県ですが、中には川越キャンパスのある埼玉県・さいたま市を志願する学生もいます。川越キャンパス今年の四年生(千五百五十八人)の出身地は、埼玉県35%、東京都21%、その他の関東各県3~4%、関東地方全体で73%という状況です。関東近県まで含めると80%になり、以前のように全国から学生が集まってい

る状況ではありません。

川越キャンパス4年生の約6%が教職登録し、その半数が教員免許状を取得しています。(教員免許取得率  $b/a\%$ )

卒業時の教職志望者は、教員免許取得者の約30%台( $c/b\%$ )で推移しています。現役合格教諭は最近五~七名程で、臨時的任用教員経験三年程で80%台(公立教員就職率  $e/d\%$ )にまで伸びています。最後まで諦めず、教員になるという強い意志を学生時代に醸成することが重要とデータが示しています。

そのためには、①身近な先輩たちが教壇に立っている姿を見せること、そして②大学一、二年次より学習ボランティア体験等から教員の仕事の魅力や醍醐味を体感させることです。具体策として川越キャンパスでは、大辻教授の講義と連携し、教職履修二、三年生に「現役四年生の教員採用試験合格体験談を聞く会」「教職実践演習講義の中で先輩や若手教員の話」、川越市と連携し、市内小・中学校への「川越市スクールサポーター学生派遣」に取り組んでいます。

### 三 サステイナブルな好循環へ

#### ―白山教育会の展望と課題

白山教育会の活動歴史を概観すると、大学と高校が学生募集と教員養成・採用試験合格で連携した時代、全国に七千名の教員を輩出し、各県の「〇〇県白山教育会」を結成・活動した時代がありました。

今、東洋大学志願者数が十万人を超え全国二位(二〇一九年度)にまで評価・評判が高まりました。

今後は卒業生の活躍が期待されます。川越キャンパスにおいては、教職履修・教員免許取得学生の卒業後進路状況は、就職・進学先を100%把握しています。また、川越市教育委員会主催の「川越市理科指導力向上研修」を大辻研究室が二〇一八年より夏季休業中に毎年継続的に実施し、東洋大出身理科教員も研修に参加し、専門教育の進化・深化・リカレントを実施するとともに、大学と現任教員が研修を通して連携を継続しています。

個人情報の管理が厳しい今、本人の了解を得て、埼玉県・さいたま市新任教員に「埼玉白山教育会」への

加入を促進し、総会で新任紹介を行い、会員名簿に登録しています。二十代教員の割合は77%に上昇しています。教職に関して厳しい社会風潮の中、若手教員を惹きつけ、育て、伸ばす方策が必要です。そのために

①交流、②相談、③信頼・信用をキーワードに「埼玉白山教育会」を運営していきます。①交流は、総会等の自己紹介、研修会等で人間関係づくりを行っています。学校現場の各種会議や研修会などで役立っている、という声が聞こえています。②相談は、授業計画、研修レポート、部活動等で同窓教員同士のコミュニケーションツールとして相談・アドバイスし易い環境を心掛けています。③信頼・信用は、東洋大学出身ということで、安心して新しい教員の仲間づくり・出会いと学びを推進していきます。

今後、教諭から主任、主幹教諭、教頭、校長、教職支援アドバイザーへ幅広い層が集い、循環する埼玉白山教育会を目指します。埼玉白山教育会員の勤務校の教え子が東洋大学へ入学し、卒業して教員になるサステイナブル好循環が目標です。

これからの社会は、ヘブライ・ヘレニズムの直線的な進化・進歩的思想の上にヒンドゥー・ブッディズムの円環・輪廻的な循環思考を重層輻輳的に組み編むことが求められる時代になるでしょう。

#### おわりに

この原稿執筆の機会をいただきありがとうございます。教職支援課には資料収集等で大変お世話になりました。この稿で「埼玉白山教育会」の成立、歴史、現在の活動の一端を記録することができたなら幸甚です。内容は大枠なので更に調査の必要性を感じています。活動、情報、資料などのご連絡をお寄せください。

「埼玉白山教育会」は、東洋大学創立百周年を機に昭和六十二年にスタートし、学祖井上円了先生揮毫「耕不倦」を大切に、今年で三十五年目を迎えます。全国の卒業生三十四万余名とともにオリンピック・箱根駅伝・相撲等々、母校後輩の活躍に応援・エールを送っています。東洋大学の活躍、発展と更なる

飛躍を祈念します。

(武蔵野学院大学非常勤講師

東洋大学校友会代議員

昭和五十五年文学部哲学科卒

ドイツ・ケルン大学哲学部留学

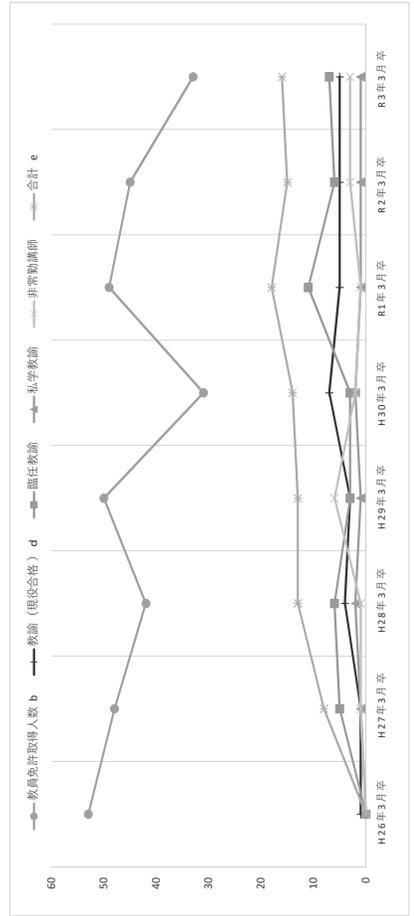
昭和五十八年大学院哲学修了)

東洋大学川越キャンパス教職就職者数の推移

東洋大学川越キャンパス教職支援室作成 2021年12月現在

	2014年 3月卒	2015年 H27年 3月卒	2016年 H28年 3月卒	2017年 H29年 3月卒	2018年 H30年 3月卒	2019年 R1年 3月卒	2020年 R2年 3月卒	2021年 R3年 3月卒	2022年 R4年 3月卒
教職登録人数 a	0	0	0	0	91	94	64	74	1,158人(中) 75
教員免許取得人数 b	53	48	42	50	31	49	45	33	42
採用試験受験者数 c	-	15	17	22	21	20	16	12	14
教諭(現役合格) d	1	4	3	3	7	5	5	5	5
臨任教諭	-	5	6	3	3	11	6	7	*
私学教諭	-	1	2	1	2	1	1	1	1
非常勤講師	-	1	1	6	2	1	3	3	*
合計 e	-	8	13	13	14	18	15	16	*
公立教諭志望者数 f	-	6	11	9	11	14	12	10	*
臨任1年目合格	-	0	1	0	0	0	3	2	*
臨任2年目合格	-	1	2	2	2	3	2	*	*
臨任3年目以降合格	-	3	3	2	0	1	*	*	*
臨任等⇒教諭 計 g	-	4	6	4	2	4	5	2	*
総教諭数 h (d+g)	-	5	10	7	9	9	10	7	*
①教員免許取得率 b/a (%)	-	-	-	-	34%	52%	70%	45%	56%
②現役合格率 d/c (%)	-	7%	24%	14%	33%	25%	31%	42%	36%
③教諭志望率 e/b (%)	-	17%	31%	26%	45%	37%	33%	48%	*
④公立教諭就職率 h/f (%)	-	83%	91%	78%	82%	64%	83%	70%	*

教職支援室 大社教要属任 教職登録学生 卒業初年度



\*欄は2022年以降のデータ